

拝啓 秋の涼しい時節となりました。皆様お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読みいただきありがとうございます。近所の公園には、沢山のきんもくせいが植えられており、今は残り香を漂わせています。きんもくせいは、例年ですと10月1日頃咲き始め、10月10日頃までが開花時期と思いますが、今年は2週間ほど遅れました。

今月は、小西先生の『ローマ人への手紙講解説教』の第6回目です。小西先生は、ロマ書3章22節、口語訳聖書の「イエス・キリストを信じる信仰」と訳されている箇所を、「イエス・キリストが所有したもう忠実」と訳され、人間側の信仰が救うのではない、イエスの救いは完成され、絶対的であることを強調されます。また、24節を「常に義とせられつつ」と現在分詞形に訳され、何度も罪を犯しながらも、常に義とされて復活の朝に至る、ということを強調されます。これも小西先生の教えの大切な中心個所の一つです。称名は、「常に義とせられつつ」に至る為に、最もよい祈りであります。

『南原繁の生涯 信仰・思想・業績』について、多くの方々から、小見出しがたくさんついていて、文章が読みやすかった、という感想を頂きました。南原先生を人々に理解して頂くために、分かりやすく書けたかなあと、うれしく思いました。

新渡戸・南原賞を受賞された大津光男さんからご著書『稲造精神とララ物資』を頂きました。その本に、新渡戸先生が、大正15年12月14日、国際連盟を去って帰国する時、ジュネーブ大学でされた「一日本人の見たるクエーカー主義」という講演が収められています。新渡戸先生の信仰がよくあらわされた感銘深い講演です。(全集では、第19巻の408ページ)クエーカーでは、内なる光をイエス・キリストの人格と考え、それを受けることが出発点であり、そのことにより、肉体的・精神的なエネルギーの増加、心の平和・喜悅、死を恐れない心、愛の無限の増加などの効果がある、と述べられています。また聖霊は、輝く光、見える火、耳に聞こえる声の形をとって、いろいろな人に現れたという事例も興味があります。

私は、朝屋根越しに太陽が輝いて現れる時、木の間を通して太陽光線が降り注ぐ時、太陽が水路や水の上に反射して輝いているのを見る時、夕方雲や空を荘厳な色に染めて輝く太陽を見る時など、強く聖霊を感じ、「我が主イエスよ」という言葉が反射的に出て参ります。どうぞ皆様も、聖霊を感じる自分にあったよい時をお持ちになられますように。

晩秋に向かう時期、お身体ご自愛のほど、祈り申し上げます。 敬具

平成24年10月25日

山口周三

エンカウンターのご読者各位